

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人萌葱の郷 ライフサポートセンターなごみ園				公表日	2026年 2月 24日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環 境 制 ・ 運 営 ・ 体	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	100%	0%	1人ひとりの発達段階や興味関心に応じた教具・教材を保護者、訪問支援先、関係機関で選定し、支援に活用しました。特に視覚的な支援が有効なお子様には絵カードやスケジュールボードを用い、活動の見通しを持ってるように工夫しました		
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	現在の職員配置数は、利用希望者の支援ニーズに対して対応できていると感じています。	今後も利用希望者のニーズにお応えできるよう支援体制を整備していきたいと考えます。	
業 務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%		基本的に、職員は業務改善に参画しているものの、さらに広い範囲での意見収集や役割分担の工夫をして、情報共有の場を増やすことでより多くの職員が改善活動に関わることができるように工夫をしていきたいです。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	保護者会を通して行っていると感じる	今後も保護者向け評価表を実施、併せて、関係者会議や利用時の送迎の際の直接のご意見やご要望を業務改善に繋げるよう努めています。	
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・定期的な職員会議や個別面談を通して、業務に関する意見を収集する機会を設けています。 ・考えを共有し、支援に振りがないように努めています。	意見が十分に反映されるよう、具体的な行動に繋がる仕組みを強化していきたいと思えます。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	外部評価を実施し、いただいた意見を業務に活かすよう取り組んでいます。	今後は評価結果を具体的に活用し、継続的な振り返りを行うことで、より実践的な業務改善につなげたいと考えています。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%		職員が研修を受講できる機会はあるものの、業務等の都合上、全員が十分に参加出来ているとは言えない状況がありますが、学んだ内容を職員間で共有する機会を設け、全体のスキル向上に繋げていきたいと考えています。	
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	100%	0%	支援開始前に発達状況や行動特性を把握するためのアセスメントを実施し、保護者や関係機関と連携しながら情報を収集しています。また、こども本人の意向も可能な範囲で確認し、より適切な支援計画の策定に努めています。	支援開始後に状況が変化することもあるため、定期的な見直しや評価を強化し、より柔軟な対応ができるよう改善していきたいと考えています。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	保育所等訪問支援計画の作成にあたり、児童発達支援管理責任者を中心に、支援に関わる職員が情報を共有しながら検討を行っています。アセスメント結果をもとに、こどもの発達状況や特性を踏まえた支援の方向性について話し合い、共通理解のもとで計画を策定しています。また、保護者や保育所・学校の意見も取り入れながら、こどもの最善の利益を考慮した計画となるよう努めています。		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	100%	0%	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者や担任の先生と連携を図り、支援計画に反映しています。また、必要に応じて計画の見直しを行っています。	施設ごとに連携の取り方や関与の度合いが異なるため、よりスムーズな情報共有の方法を模索し、連携を強化していくことが課題だと考えています。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	支援に関わる職員間で共有し、計画に沿った支援が行われるよう努めています。支援開始前に職員間でアセスメント結果や支援方針について話し合い、計画の内容を伝えていきます。また、定期的なミーティングや記録の共有を通じて、支援の進捗状況や必要な調整について意見交換を行っています。	情報伝達の方法をさらに工夫し、支援の一貫性を確保することが今後の課題と考えています。	
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	独自のアセスメントツールを活用し、評価を行っています。また、訪問支援時の行動観察や、保護者・訪問先施設の担当者からの聞き取りを通じたインフォーマルなアセスメントも併用し、多角的な視点からこどもの状況を確認するよう努めています。		
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	こどもの発達や特性に応じた具体的な支援内容を設定しています。たとえば、環境調整の工夫、対人関係の支援、コミュニケーションの促進、情緒面の安定を図る支援など、個々のガイドラインに沿って、ニーズに即した支援項目を記載し、実施しています。	保護者や訪問先施設の担当者とも連携し、支援の実施状況を定期的に振り返りながら、計画の見直しや改善を図っていきたくと考えています。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	支援に関わる職員間で共有され、計画に沿った支援が行われるよう努めています。		
15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	打合せを行い、その日の支援内容や役割分担について確認しています。こどもの状態や支援の目的に応じた適切な対応ができるように努めています。特に、支援の進め方や声かけの方法を統一し、一貫性のある対応ができるよう意識しています。			

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	支援終了後には、職員間で打合せを行い、その日の支援内容の振り返りを実施しています。支援中のこどもの様子や反応、成功した支援方法や課題点について意見を出し合い、次回の支援に活かせるよう情報を共有しています。また、支援計画の見直しが必要な場合は、その場で話し合い、関係者と連携しながら適切な調整を行うよう努めています。	業務の都合上、打合せの時間が十分に確保できないことがあるため、簡潔かつ効果的な振り返り方法を模索し、記録の活用や共有の工夫を進めていくことが課題と考えています。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	100%	0%	訪問先と連携をとることで、一貫性のある支援を提供できるよう努めています。また、支援の際には施設のルールや環境を尊重しながら、こどもにとって最善の支援となるよう工夫しています。	施設ごとに支援手法が異なるため、より円滑な連携を図るためのコミュニケーションや調整が必要であると考えています。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	100%	0%	毎回の支援に関して記録を取り、支援の振り返りや検証・改善につなげています。支援終了後、こどもの反応や行動の変化、支援内容の効果について記録し、次回の支援計画に反映できるよう努めています。また、定期的に職員間で情報を共有し、支援方法の見直しや改善点を話し合う機会を設けています。	記録の内容が形式的にならないよう、より具体的な気づきや支援の成果を記載する工夫が必要だと考えています。また、記録を効率的に活用するための仕組みづくりも今後の課題としています。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	保護者や訪問先の担当者と連携を取り、支援の進捗やこどもの変化について意向の確認やモニタリングを行っています。面談や聞き取りを通じて、必要に応じて保育所等訪問支援計画の見直しを行うよう努めています。また、支援の見直しが必要な場合は、職員間で検討し、関係者と合意を得たうえで計画を修正しています。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	こどもの状況をよく理解した職員が参加できるよう努めています。支援に関わる職員が、適切な意見やごみ園での様子を提供できるよう準備を行っています。また、他の関係機関と情報を共有しながら、こどもにとって最善の支援が実施できるよう連携を図っています。	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%		継続して、地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携しながら、関係機関と情報を共有し、定期的に連絡を取りながらこどもの発達状況や支援の進捗を確認していきます。また、必要に応じて関係機関との合同会議やケース会議に参加し、支援方針の調整を行っています。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	保育所や学校との間で、こどもの支援内容や特性について情報共有を行い、円滑な移行ができるよう努めています。具体的には、支援記録やアセスメント結果を基に、訪問先の担当者や関係機関と話し合い、こどもが新しい環境で適応しやすいよう支援の継続性を確保しています。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	100%	0%	職員が支援の知識や技術を向上できるよう努めています。	関係機関との連携を通じて助言を受けたり、事例検討会に参加したりすることで、支援の質を高めています。職員を外部研修に積極的に参加させ、新しい知見や専門的な支援方法を学ぶ機会を確保し、研修で得た知識を職員間で共有し、日々の支援に活かせるよう工夫しています。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	自立支援協議会児童部会や地域の子ども・子育て会議等に積極的に参加し、地域の支援体制の充実に貢献できるよう努めています。	会議では、こどもや保護者のニーズを把握し、関係機関と連携しながら支援の方向性について意見交換を行っています。また、他の機関の取り組みを学ぶことで、自施設の支援の質向上にもつなげていきたいと思っています。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	日頃から保護者とこどもの状況を伝え合うよう努めています。また、保護者の意向や気づきを大切に、家庭での様子も踏まえた支援ができるよう心掛けています。	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	60%	40%	支援の中で保護者に対して、こどもに応じた関わり方の助言を行うほか、必要に応じて、個別の相談対応を行い、保護者の不安や悩みを寄り添うよう努めています。	家族の対応力の向上を図る観点から、ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムや、家族が参加できる研修・学習の機会について、必要に応じた情報提供を行いながら、家族と共に学び合える関わりを大切にしていきたいと考えています。また、日々の支援を通して家庭での関わり方を共有し、家族が安心して子どもと向き合えるような支援のあり方を検討していきます。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	運営規程や利用者負担について、支援開始時に丁寧に説明を行うよう努めています。また、不明点があれば随時質問を受け付ける体制を整えています。また、制度の変更があった場合には速やかに情報提供を行い、利用者が安心してサービスを受けられるよう配慮しています。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	100%	0%	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的について説明を行い、理解を得られるよう努めています。訪問先施設の職員とも共通認識を持ちながら、施設側の意向を確認しながら柔軟に対応しています。	ガイドラインの改正もあったため、より円滑に連携を進めるための説明方法の工夫が必要だと考えています。今後は、事例を交えた説明や、施設の負担を軽減できる支援の提案を行いながら、よりスムーズな協力体制の構築を目指していきます。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	計画作成の前には、保護者との面談や聞き取りを行い、現在の状況や家庭での様子、支援に対する希望・意向を確認しています。また、可能な範囲でこどもの意向も把握し、支援計画に反映できるよう工夫しています。	

保護者等への説明等	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	保護者に対して計画の内容を説明し、同意を得た上で支援を実施しています。計画の趣旨や具体的な支援内容、こどもの発達支援における目的を分かりやすく伝えるよう心掛けています。また、保護者の意向を十分に確認し、必要に応じて計画の修正や調整を行うことで、共通認識を持ちながら支援を進めています。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	定期的に保護者からの子育ての悩みや相談に応じ、適切な助言や支援を行うよう努めています。	支援の場面や個別面談を通じて、こどもの発達や生活上の困りごとについて話し合い、保護者の不安を軽減できるよう支援しています。また、必要に応じて専門機関や関係機関と連携し、保護者が適切なサポートを受けられるよう情報提供を行っています。また、保護者によって相談しやすいタイミングや方法が異なるため、コトモン連絡アプリを活用するなど工夫を行っています。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%		保護者会の開催はありますが、交流まで至っていないかもしれません。保護者の負担にならない形で参加しやすい環境を整えることが課題と考えています。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	支援開始時に相談の機会や方法を説明し、定期的な面談や日々のやり取りを通じて、相談しやすい環境づくりに努めています。	申し入れがあった場合には迅速に対応し、必要に応じて支援計画の見直しや関係機関との連携を図るようにしています。ただし、保護者によって相談しやすい手段が異なるため、引き続きコトモン（連絡ツールアプリ）を活用するよう取り組みも行っていきたいと思っています。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	活動の概要や連絡体制などの情報を保護者に提供するよう努めています。また、必要に応じてコトモンを活用し、支援の内容やお知らせを発信することで、保護者がいつでも最新の情報を確認できるようにしています。特に、行事業内、支援の工夫について分かりやすく伝えることを意識しています。	紙媒体とデジタル媒体の両方を適切に活用し、保護者が受け取りやすい形で情報提供を行うことが課題です。今後は、保護者のニーズに応じた情報発信の方法を検討し、より効果的な情報共有の仕組みを整えていきたいと考えています。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報を取り扱う際のルールを明確にし、職員間で共有しています。また、書類の管理や電子データの保護についても、情報漏えいの防止に努めています。	個人情報保護の重要性を常に意識し、より安全な管理体制を整えることが課題です。今後も個人情報の適切な取扱いを継続していきたいと考えています。
訪問先施設への説明等	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%		すべてのこどもや保護者にとって最適な方法を提供できているとは言えないと思います。今後は、より多様なコミュニケーション手段を取り入れ、こどもや保護者が安心して意思を伝えられる環境を整えていきたいと考えています。
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	100%	0%	訪問支援に加え、訪問先からの相談にも適切に対応できるよう体制を整えています。訪問先の施設や担当者と定期的に情報交換を行い、支援に関する悩みや課題を共有するよう努めています。	訪問先によって相談しやすい手段や頻度が異なるため、より柔軟な対応が求められます。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	100%	0%	保育所等訪問支援の実施後は、訪問先施設とカンファレンスを行い、支援内容やこどもの様子について情報共有を行うよう努めています。カンファレンスでは、こどもの変化や課題、支援の効果について話し合い、今後の支援の方向性を検討する機会としています。	業務状況によっては、十分な時間を確保することが難しい場合もあります。今後は、短時間で要点を効率よく共有できる方法を模索し、訪問支援の質を向上させるためのカンファレンスの仕組みをさらに充実させていきたいと考えています。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	100%	0%	家族に対して支援内容やこどもの様子について適切に共有するよう努めています。具体的には、連絡帳や面談、電話などを活用し、こどもの支援状況や成長の様子を分かりやすく伝えるようにしています。また、保護者の意向や家庭での様子も聞き取りながら、支援内容に反映できるよう配慮しています。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報の取扱いについては、本人及び保護者の方にご承認をいただいた範囲、内容で管理を徹底するよう努めています。	情報の取り扱い方法については常に見直しが必要であり、より安全な管理体制を整えることが課題です。今後は、デジタルデータのセキュリティ対策の強化や、保護者への説明の充実を図り、安心して支援を受けていただける環境づくりを継続していきたいと考えています。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	100%	0%	信頼関係を築きながら専門的な助言を行うよう努めています。また、訪問時だけでなく、必要に応じて電話やメールなどでも支援に関する課題や疑問に対して情報共有や支援の連携を行うように努めています。	
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族に周知するよう努めています。また、定期的に全職員向けの勉強会やマニュアルの見直しを行い、最新の対応方法を共有しています。また、火災や地震を想定した避難訓練や、不審者対応訓練、感染症発生時の対応訓練などを実施し、実際の場面で適切に行動できるよう備えています。	訓練の実施頻度（利用日の関係等）や内容の充実が課題であり、より実践的で効果的な訓練の工夫が求められます。今後は、職員だけでなく保護者にも分かりやすく情報提供を行い、より安全な環境づくりを進めていきたいと考えています。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画を作成し、職員が安全管理を徹底できるよう、必要な研修や訓練を定期的実施しています。	火災や地震などの災害時対応、不審者対応、感染症対策など、具体的なリスクを想定した訓練を行い、万が一の事態にも適切に対応できる体制を整え、支援の現場では、安全確認を常に意識し、環境の点検やヒヤリハット事例の共有を行うことで、事故防止に努めてまいります。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハット事例については、事業所内で共有し、再発防止に向けた対策を検討するよう努めています。	

45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	研修機会を確保し、適切な対応ができるよう努めています。また、虐待防止マニュアルを整備し、職員間での情報共有を徹底するとともに、支援の現場で子どもの権利を尊重した関わりができるように努めています。	
46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%		身体拘束については、原則として行わないことを基本方針とし、やむを得ず実施する場合の基準を組織的に決定しています。 また、身体拘束を最小限に抑えるための支援方法をさらに充実させることが課題です。今後は、子ども一人ひとりの状況をより深く理解し、環境調整や事前対応の工夫によって、身体拘束を防ぐ支援の質を向上させていきたいと考えています。